

第 3 7 0 回 幹 事 会
諸 報 告 事 項

令和 6 年 8 月 3 0 日

日 本 学 術 会 議

Ⅱ 諸 報 告 事 項

ページ

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1	会長談話	3
2	会長メッセージ	3
3	会長等出席行事	12
4	委員の辞任	12

第 2 各部・各委員会等報告

1	部会の開催とその議題	12
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	13
3	機能別委員会の開催とその議題	14
4	分野別委員会の開催とその議題	15
5	課題別委員会の開催とその議題	20
6	若手アカデミーの開催とその議題	20
7	連絡会議の開催とその議題	20
8	サイエンスカフェの開催	20
9	記録	21
10	総合科学技術・イノベーション会議報告	21
11	慶弔	21
12	意思の表出に係る報告	21

1 3	意思の表出（英訳版）に係る報告	21
1 4	インパクト・レポート	22

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長談話

日本学術会議会長談話

「宮崎県日向灘を震源とする地震及び南海トラフ地震臨時情報について」

本年8月8日に発生した宮崎県日向灘を震源とする地震により被害に遭われた皆様に、お見舞いを申し上げます。

この地震に関連して、気象庁から南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表されました。関連の地域をはじめ、皆様におかれましては、政府や自治体からの情報によく御注意いただき、災害への備えを進められますようお願いいたします。

日本学術会議は、南海トラフ地震を始めとする大規模な災害を想定し、提言「壊滅的災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」（令和5年8月29日）¹を発出しており、そこでは、事前の備えを充実させ、災害を乗り越える力としてのレジリエンスの向上のため、自然科学分野と社会科学分野の知見を統合する「知の統合」を目指すことを提言しております。また、広域かつ大規模な災害に備え、乗り越えるための、あらゆる分野の知の結集に貢献する活動を行っております。今後の状況の推移について注視しつつ、日本学術会議に期待される役割を適時適切に果たすべく全力を尽くしてまいります。

令和6年8月9日

日本学術会議会長 光石 衛

¹ <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-t351-3.pdf>

2 会長メッセージ（2件）

日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第12回会合の開催について

令和6年7月30日

日本学術会議会長

光石 衛

昨日、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第12回会合が開催されました。昨日の会合では、組織・制度WGと会員選考等WGの議論の状況についてそれぞれの主査から報告がありました。続いて、第26期アクションプランの取組状況について私（会長）から

説明いたしました。続いて、海外アカデミーへの質問事項の回答及び両WGの「これまでの議論と今後の検討」に関して内閣府から説明があり、その後、意見交換が行われました。

意見交換では主に次のように意見を申し述べました。

- ・6月7日の第11回有識者懇談会に「より良い役割発揮のための制度的条件」と題する文書を提出し、法人化をめぐる論点について懸念する点を表明したが、その後の各WGでの議論において、同文書により指摘した懸念は、依然として払拭されていないこと
- ・とりわけ、次の5項目は、「近視眼的な利害に左右されない独立した自由な学術の営みを代表するアカデミーの活動」を阻害するもので、到底受け入れられないこと
 1. 大臣任命の監事の設置を法定すること
 2. 大臣任命の評価委員会の設置を法定すること
 3. 『中期目標・中期計画』を法定すること（独立行政法人のようなものは認めがたい）
 4. 次期以降の会員の選考に特別な方法を導入すること（コ・オペレーションの考え方の逸脱になる）
 5. 選考助言委員会の設置を法定すること
- ・「より良い役割発揮のための制度的条件」において指摘した懸念が払拭されるよう、この5項目を満たす案も俎上に乗せた上で、さらに議論を深めることを強く求めること

他方で、資料5（「これまでの議論と今後の検討」）においては、「今後、具体的な制度設計を進める中で、引き続き学術会議の意見もよく聴きながら丁寧に議論していきたい」とされております。現時点では、有識者懇談会の方向性と学術会議の考え方には隔たりがありますが、学術会議の懸念が払しょくされるよう、引き続き有識者懇談会及び両WGの議論に参画してまいりたいと思います。

引き続き、皆様の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

＊内閣府「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」HP

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai.html>

＊第12回有識者懇談会資料

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/20240729shiryo.html>

＊内閣府「組織・制度ワーキング・グループ」HP

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/soshikiwg.html>

＊内閣府「会員選考等ワーキング・グループ」HP

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/kaiinwg.html>

＊日本学術会議HP「日本学術会議の在り方について」特設ページ

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-20.html>

会員・連携会員の皆様への会長メッセージ

「日本学術会議第 25 期 3 年目（令和 4 年 10 月～令和 5 年 9 月）の活動状況に関する評価」における指摘事項に対する考え方について

令和 6 年 8 月 28 日

日本学術会議会長 光石 衛

本年 4 月、5 名の外部評価有識者の皆様に「日本学術会議第 25 期 3 年目（令和 4 年 10 月～令和 5 年 9 月）の活動状況に関する評価」（以下「外部評価」という。）を取りまとめでいただき、同月の日本学術会議第 191 回総会において、長谷川眞理子座長から御報告いただきました。

外部評価において御指摘いただいた内容に対する考え方について、項目ごとに下記のとおりお伝えします。

1. 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」と重点的取組事項である「第 26 期日本学術会議アクションプラン」について

1. 1 国際活動の強化について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

- ・国際的なプレゼンスの向上に関しては、これまでの活動により、大変に良くなったと考えられる。とくに、今後設置されることとなる国際アドバイザリーボードの存在は、大きな影響を持つことと思われる。
- ・日本で開催された G サイエンス学術会議 2023（令和 5 年 3 月）では、共同声明の取りまとめをリードし、また、サイエンス 20 の共同声明「持続可能な開発のための変革する科学」の取りまとめに貢献したことなども高く評価出来る。
- ・英国王立協会をはじめ、ドイツ、フランスの各アカデミーなど世界のリーディングアカデミーの会長や役員などとの会談を継続した。特に英国王立協会とは双方 20 名以上が参加し、「ネットゼロに向けた科学技術対話」を開催した（令和 4 年 11 月）ことも高く評価できる。今後、他のテーマや他のアカデミーとの交流・連携強化を期待したい。
- ・科学技術外交が世界的に重要になってきている現在、外務省の下で開催されている科学技術外交に関する会議ともより密接に連携するべきなのではないだろうか。

【指摘事項に対する考え方】

日本の科学者の内外に対する代表機関である日本学術会議にとって、国際活動は極めて重要な活動のひとつであり、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を踏まえてその活動を推進してきたところです。

また、国際的なネットワーク機能の強化、ナショナル・アカデミーとしての世界に向けた発信と貢献、国際活動の成果の社会に向けた発信を重点目標として策定した「日本学術会議の国際戦略～国際活動のさらなる強化に向けて～」（令和 4 年 4 月第 184 回総会）を踏まえて、多国間の交流・協力、アジア地域を中心とした交流・協力、二国間の交流・協力、若手科学者の育成、国内外への情報発信等の国際活動をさらに強化してまいります。

加えて、令和5年12月に公表した「日本学術会議第26期アクションプラン骨子」（以下「アクションプラン」という。）において、「ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上」を掲げているところです。海外のナショナルアカデミー等との連携の強化及び日本学術会議の国際活動への助言等を目的として、「国際アドバイザリーボード」を開催することを決定したほか、世界のリーディングアカデミーとの連携、アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮、主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通じた次世代育成などにさらに取り組んでまいります。

第191回総会（令和6年4月）において、科学技術外交の現状に関しても講演をいただいたところです。外務省の科学技術外交推進会議のメンバーとなっている日本学術会議の会員、連携会員を通じた連携を含め、今後の連携のあり方について検討を進めてまいります。

1. 2 科学的助言機能の強化について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

- ・そもそも、「課題」として何を抽出するのがよいか、何をどのように取り上げるのか、その決定の過程が一番重要である。それには、従来のやり方だけでは不十分かもしれない。これまで取り上げている課題は中長期的かつ学術的なものが多いように見受けられるが、現下の課題についてさらに幅広く取り上げる、喫緊の課題の取り扱いを具体的に検討するなど、柔軟に機動力をもって対応出来るとよいだろう（令和6年能登半島地震関連の問題その他）。
- ・どのような提言が必要とされているのかに関する、いわゆるフォーサイトも系統的になされていない。今後、学術会議が社会から頼られるアカデミーになるには、専門的見地に基づいた科学的助言機能の「実効性」を向上させる必要があるが、そのためには、行政および立法府の政策担当者や産業界、NGOなど、実社会のさまざまなステークホルダーと日常的に深く関わり、相手の実情に通じ、それを踏まえてどのようなテーマをどのように取り上げるべきかを研究する部門が必要なのではないか。現在、政府や産業界との意見交換は年1回程度にとどまるが、これは少なすぎる。より頻回のざっくばらんな意見交換が定常的にできる仕組みを構築する必要がある。
- ・発出した助言がどのように受け止められ功を奏したのか、どのように政策その他に反映されたのか、などのフォローアップをさらに進めて実効性のあるものにしていくべきである。その点はまだ不十分であるように見受けられる。
- ・分科会のあり方を再検討し、異なる分科会間の連携を促進するように働き掛けたことは評価できる。しかし、まだまだ従来の専門性の枠に捕らわれた分科会ではないかと危惧される。
- ・科学的助言を作成するにあたっては、さまざまなステークホルダーがいることを考慮し、エビデンス重視でいながら、助言の表現には具体的な配慮が必要だろう。
- ・各種学術関係機関との密接なコミュニケーションと言う点では、そもそも、総合科学技術・イノベーション会議（以下「CSTI」という。）との関係、役割分担、法律における違いなどについてもっと明確に議論する必要があるのではないかと考える。「車の両輪」という言い方はされているものの、具体的ではない。CSTIは、学術の全体を見ている組織ではなく、その点で立場の違いははっきりしているのだが、政策を考える上での学術

会議の「助言機能」の位置づけが、CSTI との関係で明確ではない。

- ・国際卓越研究大学制度の創設など、国立大学をめぐる政策が次々に進められている。このような政策が、日本の学術全般に与える影響について、学術会議でも議論し、政府機関と協議するべきではないかと考えるが、どうだろうか。
- ・また、アカデミアとして、現在の成果主義のあり方にもっと警笛をならし、長期的な教育や研究のあり方についての提言をすることで科学や学術の発展に真に寄与し、わが国の将来を担う若者の人材育成に尽力して頂きたい。こどもの個性に応じた教育のあり方や、理系、文系を問わず学問への関心の向上を図るための長期的、かつ具体的対策を提言することは、わが国の科学や学術の発展に大きな貢献をなすものとする。

【指摘事項に対する考え方】

アクションプランにおいて、「タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化」を掲げており、現在、第7期科学技術・イノベーション基本計画、「紅麹」の問題を契機とした食品制度、生成 AI、量子技術、カーボンニュートラル等について速やかな意思の表出に向けて取り組む課題と位置づけ、委員会や分科会等で精力的に検討を進めているところです。今後、タイムリー、スピーディな意思の表出に向けて、喫緊に対応が必要な課題の取り上げ方や長期的な視点で取り組むべき課題の検討等、具体的な方策について企画 WG を中心に検討してまいります。なお、能登半島地震については、課題別委員会「防災減災学術連携委員会」において、本年3月に公開シンポジウム「令和6年能登半島地震3ヶ月報告会」及び「人口減少社会と防災減災」を開催するなどの活動を行っているところです。また、本年8月の日向灘地震、及び巨大地震注意に関しては翌日に会長談話「宮崎県日向灘を震源とする地震及び南海トラフ地震臨時情報について」を発出しました。

さらに、意思の表出として満たすべき事項のひとつとして、関係機関などとの意見交換を明記するとともに（「意思の表出等の作成手続について」（令和3年12月24日日本学術会議第320回幹事会決定））、「意思の表出に係る外部機関等との意見交換に関するガイドライン」（令和4年1月27日日本学術会議第321回幹事会決定）も策定しており、今後も多方面の当事者等との意見交換・情報共有に取り組む必要があると考えています。

発出した意思の表出については、政策への反映、政策立案者や学協会・専門職団体、研究教育機関、市民団体等の反応などについて、1年後速やかにフォローアップ・レポートを、3年以内にインパクト・レポートを作成し、科学的助言等対応委員会に報告することとしています。このようなレポートを通じて意思の表出の適切な事後評価を行うことにより、さらに実効性のある意思の表出の発出につなげていくことが重要と考えています。また、アクションプランの「タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化」の取組の一つとして、今後、システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップを進めることとしております。

産業界との対話の取組として、産業界に所属する会員と企画 WG との意見交換、産業界の視点から日本学術会議へ期待することなどをテーマとした経済団体との意見交換を実施することとしております。また、アクションプランにおいて「産業界、NGO/NPO をはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進」を位置付けたところであり、今後、様々なステークホルダーとのコミュニケーションを促進する方策を検討してまいります。

総合科学技術・イノベーション会議（以下「CSTI」という。）は、科学技術・イノベー

ション基本計画の策定等、政府において科学技術・イノベーションに関する政策形成を直接行う機関であり、日本学術会議は、科学者の意見を広く集約し、科学者の視点から中立的に行う、という役割分担に沿って、お互いに「車の両輪」として我が国の科学技術の推進に寄与しています。

また、研究力後退の原因究明と、低落を続ける日本の研究力回復を早期に実現するため、課題別委員会「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」を設置する予定であり、様々な学術政策がどのように研究力に影響を与えたかについて、人材育成等を含め、長期にわたる客観的事実に基づいた解析を行い、その成果を今後の科学技術政策に反映させるための検討を深めることとしております。

1. 3 情報発信力の強化及び事務局機能の強化等について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

- ・ホームページのリニューアルを始めとして、広報機能についてはよく改善されてきていると評価する。今後、SNSなど様々な手段を用いて、国民にとってより身近な存在になることを目指すべきである。
- ・産業界と学術会議との会合は、もっと頻繁にあってもよいのではないか。双方にとって意義のあるコミュニケーションの形を探り、持続的に行って欲しい。
- ・企画 WG を設置したことは大いに評価できる。さらに、多くの連携会員などが活動する中で気付いたことをボトムアップで集約することはできないか。若手や、専門性にとらわれず課題解決型の問題に対応する会員や連携会員を企画 WG に広く参加させられないか。また、会員以外からも議論に参加する仕組みの拡大が必要と思われる。
- ・博士号を持つ人材を事務局に雇用することは、大変に重要な課題であると考ええる。
- ・人材、補助、活動経費は、もっと増やされてしかるべきである。情報発信システムの更新にも相当な経費がかかると考えられる。
- ・学術会議が果たすべき役割から見て、現在の予算規模では足りないことは明らかであり、少なくとも現在の2～3倍の安定な収入の確保が切望される。このために、学術会議自ら国や社会の理解を得る努力が求められる。

【指摘事項に対する考え方】

日本学術会議の Web サイトについては、すっきりとしつつ目を引くデザインに変更するなど、わかりやすく利用できるよう改修を行ってまいりました。加えて、アクションプランにおいて「情報発信機能の強化」を掲げているところであり、日本学術会議 Web サイトの充実として、国民に向けたわかりやすい動画を順次作成・公開することとし、まずは第1弾として会長メッセージ動画を公開したほか、テーマ別に知りたい情報を見やすくした「特集サイト」を順次作成していく予定です。また、広報・コミュニケーションのプロフェッショナルの方を日本学術会議アドバイザーとして委嘱し、Web サイトの充実を含む広報委員会等における検討やコンテンツ作成へ参画いただくほか、広報機能の強化に向けて更なる活用を図るなど、引き続き、情報発信力の強化に取り組んでまいります。

産業界との対話の取組として、産業界に所属する会員と企画 WG との意見交換、産業界の視点から日本学術会議へ期待することなどをテーマとした経済団体との意見交換を実施することとしております。

アクションプランを推進する体制として企画 WG を開催しておりますが、若手アカデミーに所属する連携会員、産業界に所属する会員、前期において課題別委員会に所属していた会員など、幅広い会員・連携会員に参画いただいております。今後、さらに多様な意見を取り入れながら、アクションプランの実現に向けた検討を行ってまいります。

事務局機能の強化は日本学術会議のより良い役割発揮のために重要な課題であり、博士号を持つ人材の雇用、情報システムの更新等について、予算確保も含めた具体的な方策について検討してまいります。

1. 4 会員選考プロセスの透明性の向上について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

- ・第 26-27 期の会員候補者の選考に当たっては、各部に対応する各選考分科会において、各地区（7 地域）から 1 名以上の会員候補者となるべき者を選考するよう努めるとされたが、現状に鑑みると無理があったのではないかと、さらに検討が必要ではないかと思われる。もちろん地域バランスは重要であるが、科学者人材の地域偏在は現にある以上、非改選の第 25-26 期会員も含めて各部ごとに各地区 1 名以上となるように努める、あるいは第 26-27 期の会員候補者については日本学術会議全体で各地区 1 名以上となるように努める、との目標を立てるのが現実的ではなかったか。
- ・現行の会員の任期では、会員が十分に職務を達成することは難しく、学術会議としての継続性にも問題があるのではないかと懸念される。選考のあり方の不断の見直しも期待したい。

【指摘事項に対する考え方】

第 26-27 期の会員候補者の選考については、「第 26-27 期日本学術会議会員候補者の選考方針」（令和 4 年 4 月 19 日日本学術会議）（以下「選考方針」という。）を定め、「選考に当たって考慮すべき観点」の一つとして、地方に活動の拠点を置く会員候補者の積極的な選考に努めることや、その際、地区会議や地方学術会議の活動に対応できるよう、各地区にバランスよく会員が確保されるとともに、各地区内でも過度の偏在が生じないように留意することとしました。これを踏まえ、「第 26-27 期日本学術会議会員候補者の選考要領」（令和 4 年 10 月 24 日選考委員会）（以下「選考要領」という。）を定め、「選考に当たっての考え方・考慮すべき事項」の一つとして、各選考分科会においては、各地区（7 地域）から 1 名以上の会員候補者となるべき者を選考するよう努めることとしました。第 26-27 期の会員候補者の選考に当たっては、選考方針及び選考要領を踏まえて行いました。第 26-27 期の会員候補者の選考に関して御指摘いただいた点については、次期の会員候補者の選考に向けて検討してまいりたいと思います。また、会員の任期等の会員選考のあり方について、日本学術会議としても引き続き検討してまいります。

1. 5 その他の活動について

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

地方の先細りは深刻であり、学術会議から国に対して問題を指摘し、要請を行うことがもっとあってもよいのではないかと。「地方」というものをどう捉えるか、それも多義的であるだろう。学術会議が地域の文化や歴史、価値観などを尊重しつつ、これまでの延長に

はない大胆なシナリオを描くことで、地方活性化に貢献すべきであろう。このために、地方の大学群を束ねて議論する場を作るべきであり、その核になる地方の会員、連携会員を増強すべきであろう。なお、アクションプランにおいて、「学術を核とした地方活性化の促進」として明示的に取り上げられたことを評価するとともに、具体的な検討体制を構築して活動を促進するべきである。

【指摘事項に対する考え方】

学術を核とした地方活性化の促進は、アクションプランにも掲げているとおり重要な課題であり、企画 WG や地方学術会議委員会を中心として具体的な方策を検討してまいります。また、地方に活動の拠点を置く会員・連携会員は地方活性化の促進においても重要であり、第 26-27 期の会員候補者の選考において各地区（7 地域）から 1 名以上の会員候補者となるべき者を選考するよう努めてきたところですが、御指摘いただいた点については、次期の会員候補者の選考に向けて、引き続き検討してまいりたいと思います。

2. 会員任命問題及び日本学術会議のあり方についての見解並びに外部評価有識者の任期終了にあたって

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

令和 2 年 10 月に、当時の政府が日本学術会議からの会員推薦名簿の中の 6 名を任命せず、なおかつその理由を明示しなかった、いわゆる会員任命問題は、いまだなんらの解決も見せておらず、現在の政府において、本件をもう終わったこととしていることには、外部評価有識者としても懸念を感じており、本件に関する学術会議の対応は真摯なものであった。

また、勧告を出すことによって日本学術会議法の拙速な改正を阻止できたことは、大きな成果であったと評価する。

その後、政府は、「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」（以下「有識者懇談会」という。）を開催し、日本学術会議会長等も要請に応じて議論に参加しつつ、日本学術会議に求められる機能及びそれにふさわしい組織形態の在り方について検討してきた。会員任命問題に向けて、議論が進展を見せない中、学術会議が有識者懇談会の議論に参加したことで、今後、建設的な方向に議論が進むことを期待したい。また、これを機会に学術会議は、会員選考や財源の確保、その機能の充実などについてさらに議論を重ね、新たな制度設計の実現に向けて意欲的に臨むことを期待する次第である。

現在の外部評価有識者は、今年度で任期終了を迎える。現在の外部評価有識者は、2020 年の 9 月に、いわゆる「会員任命問題」が発生した翌年度から任期が始まった。この問題は依然として解決しておらず、以後、政府側と学術会議側との間で、適切な意思疎通が思うように構築できていない状態が続いており、これについては外部評価有識者としても苦慮するところである。

「日本学術会議の法人化に向けて」という内閣府による文書と、声明「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方」（令和 5 年 12 月 9 日）という日本学術会議の文書が発出されているが、内閣府における今後の検討の前提として、両者の間で、より深く協議を行うべき点が存在すると見受けられる。今後、より良いコミュニケーションがとられるように、学術会議側だけの努力では不足かもしれないが、相互の信頼関係の構築に向けてさらに努力してほしい。

現在提案されている学術会議の改革案について、「会員選考のための選考助言委員会を置く」とあるが、諸外国のアカデミーを見ると、このような構造を持っているところはなく、また、運営助言委員会を置き、監事は主務大臣が任命する、主務大臣が任命する外部の有識者で構成される評価委員会を置く、などについても、現在の案では、これまで有識者懇談会等で示してきたような懸念点がある」、というのが学術会議側の見解であった。その意味するところは、原理的に理解できる。

しかし、「会員任命問題」に端を発する事態の経過のみならず、日本学術会議のあり方そのものは、再検討をする時期に来ていたのだろうと察せられる面もあるので、今後の事態の打開に向けて、学術会議が新たな制度設計に意欲的に臨むことを期待したい。

外部評価有識者としては、これまでの学術会議が個々の活動に真摯に取り組んでいることを評価する。外部評価有識者が出した意見に対し、学術会議側がどう対応したか、真摯に説明する機会を設けられてきたことも、評価に値する。少ない予算にもかかわらず、会員等が献身的な努力を続けることでこれまでの成果が成されてきたことを評価するとともに、これは憂うべき事態と考える。今後、これまでよりも多くの安定的な収入を得て、さらにナショナルアカデミーとしての活動が、日本国民および世界に知られることを望むものである。

【指摘事項に対する考え方】

いわゆる「会員任命問題」については、これまでの経緯を踏まえつつ、第 26 期においても引き続き対応してまいりたいと考えております。

日本学術会議の在り方については、「日本学術会議の法人化に向けて」（令和 5 年 12 月 22 日内閣府特命担当大臣決定）を踏まえて、内閣府において開催されている「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」（以下「懇談会」と言う。）並びに懇談会の下で開催されている「組織・制度ワーキング・グループ」及び「会員選考等ワーキング・グループ」において、法人化に向けた具体的な制度の検討が行われているところであり、日本学術会議としてはこれらの議論に参画するとともに、日本学術会議としても主体的に検討を重ねてきたところです。いまだ有識者懇談会の方向性と日本学術会議の考え方には隔たりがありますが、本年 7 月 29 日に開催された懇談会の第 12 回会合に提出された資料において、「今後、具体的な制度設計を進める中で、引き続き学術会議の意見もよく聴きながら丁寧に議論していきたい」とされたことも踏まえ、日本学術会議の懸念が払しょくされるよう、引き続きこれらの議論に参画してまいりたいと思います。

以上

3 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
7 月 29 日 (月)	第 12 回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日比谷副会長
7 月 29 日 (月)	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日比谷副会長
8 月 15 日 (木)	令和 6 年度全国戦没者追悼式	光 石 会 長
8 月 22 日 (木)	第 6 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」－令和 6 年能登半島地震災害における課題と教訓－開会挨拶（オンライン）	三 枝 副 会 長
8 月 25 日 (日)	第 27 回国際昆虫学会議開会式	日比谷副会長

注) 部会、委員会等を除く。

4 委員の辞任

土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 IRDR 活動推進小委員会

村上 威夫 (令和 6 年 7 月 31 日)

総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会

青木 伸俊 (令和 6 年 8 月 15 日)

第 2. 各部・各委員会等報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第二部役員会 (第 8 回) (7 月 29 日)

- ① 予算執行状況について
- ② 夏季部会について
- ③ 意思の表出について
- ④ その他

(2) 第一部会 (第 4 回) (8 月 1 日)

- ① 開会挨拶 (13:30～13:35)
- ② 「超少子高齢社会と人文社会科学の役割」 (13:35～16:20)
 - i) 講演 (13:35～14:45)
 - 上東 貴志先生
 - 島岡 まな先生
 - 城山 英明先生

中澤 高志先生
原 良憲先生
美馬 のゆり先生
吉水 千鶴子先生

ii) 討論 (15:00～16:20)

コーディネーター：大久保 規子副部長

- ③ 科学技術・イノベーション基本計画へのインプットについて (16:30～17:00)
- ④ 法人化問題について (17:00～17:55)
- ⑤ 閉会挨拶 (17:55～18:00)

(3) 第三部会 (第3回) (8月1日、8月2日)

- ① 日本学術会議の在り方に関する検討について
 - ・第26期日本学術会議アクションプラン企画WGからの報告について
 - ・DX化の推進について
- ② 第三部の今後の取組について
 - ・人材育成について
- ③ 各委員会等からの活動報告について
- ④ 自由討議
- ⑤ その他

(4) 第二部会 (第5回) (8月8日、8月9日)

- ① 審議
 - i) 第二部直下あるいは第二部関連の委員会・分科会等の活動について
 - ・着床前診断、特にPGT-Mに関する検討分科会の提言について
 - ・生命科学系学術雑誌問題検討分科会の活動について
 - ii) 第二部直下あるいは第二部関連の活動提案について
- ② 報告並びに意見交換
 - i) 幹事会附置WG及び内閣府WGの活動報告
 - ・第26期日本学術会議アクションプラン企画WG
 - ・日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会及びWG
 - ・日本学術会議の在り方と政府有識者会議への対応について
 - ii) 委員会、分科会等の活動報告
 - iii) その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 広報委員会 「学術の動向」編集分科会 (第4回) (8月16日)

- ① 「学術の動向」の編集について
- ② その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会（第3回）（7月29日）

- ① 前回選考委員会議事要旨（案）
- ② 補欠の会員候補者の選考について
- ③ その他

(2) 科学者委員会（第8回）（8月9日）※メール審議

- ① 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「北海道から多文化共生を考える」の開催について
- ② 日本学術会議中部地区会議学術講演会「性はどうやって決まる？」の開催について
- ③ 公開シンポジウム「ジェンダー・エクイティへの取り組み～ナショナルセンターの役割と将来への期待～」の開催について
- ④ 協力学術研究団体の指定について
（審議対象団体）

日本畜産環境学会、一般社団法人日本運動器理学療法学会、一般社団法人レギュラトリーサイエンス学会、特定非営利活動法人人間中心設計推進機構、日本精神医学史学会、一般社団法人日本スポーツ理学療法学会、日本道徳性発達実践学会、神奈川体育・スポーツ・健康学会、日本仏教看護・ビハーラ学会、日本ケベック学会

(3) 科学者委員会 ジェンダー・エクイティ分科会（第5回）（8月9日）

※メール審議

- ① 公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待（仮）」の開催について

(4) 国際委員会 アジア学術会議等分科会（第2回）（8月9日）※メール審議

- ① アジア学術会議等分科会（第26期・第1回）議事要旨（案）について
- ② 令和6年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者及び海外招へい者の派遣について
- ③ アジア科学アカデミー・科学協会連合（AASSA）への役員候補者推薦について

(5) 国際委員会 国際会議主催等検討分科会（第3回）（8月9日）※メール審議

- ① 「国際委員会国際会議主催等検討分科会（第26期・第2回）議事要旨（案）」について
- ② 国際会議の後援について（2件）

(6) 国際委員会 科学者に関する国際人権対応分科会（第2回）（8月19日）

- ① 第1回分科会議事要旨（案）について
- ② 本分科会における審議事項について
- ③ 審査基準について
- ④ 第26期新規アクション・アラートの審議について
- ⑤ その他

(7) 科学者委員会 (第9回) (8月23日) ※メール審議

- ① 後援名義の承認 (第22回男女共同参画学協会シンポジウム) について
- ② 協力学術研究団体の指定について
(審議対象団体)
沖縄文化協会、日本スポーツパフォーマンス学会

(8) 科学者委員会 ジェンダー・エクイティ分科会 (第6回) (8月23日)

※メール審議

- ① (暫定) 公開シンポジウム「国際シンポジウム：LGBTQ の権利保障をめぐる法整備の現状と課題」の開催について

(9) 国際委員会 (第8回) (8月29日) ※メール審議

- ① 国際会議の後援について (2件)
- ② 第23回アジア学術会議における代表者の派遣の決定及び外国人招へい者の決定について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 言語・文学委員会 日本文学の伝統と現代社会分科会 (第1回) (7月29日)

- ① 役員の選出
- ② 今後の分科会活動について
- ③ その他

(2) 法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会 (第2回) (7月30日)

- ① 神谷 悠一委員 (LGBT 法連合会事務局長) 「報告－LGBT の人権保障に向けた課題」
- ② シンポジウムについて
- ③ 意思の表出「見解」について
- ④ その他

(3) 経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同 価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会 (第3回) (8月8日)

- ① 社会に貢献するサービス学の確立のために分科会で取り扱う論点・仮説について

(4) 言語・文学委員会 言語コミュニケーションと共生分科会 (第3回) (8月9日)

- ① 日本手話をめぐる諸問題 (仮)
講師 高嶋 由布子氏 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所流動研究員)
杉本 篤史氏 (東京国際大学教授)
- ② 第26期の今後の活動計画について
- ③ その他

(5) 地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同 デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会 (第2回) (8月18日)

- ① 分科会における議論のテーマについて
- ② 分科会における議論の進め方について
- ③ 第26期の活動計画
- ④ その他

(6) 哲学委員会 現代における「いのち」を考える分科会 (第4回) (8月25日)

- ① 報告：安藤 泰至氏
「安楽死に関するメディア報道をめぐって」 (仮)
- ② 今後の分科会と参考人招致について
- ③ その他

(7) 哲学委員会・心理学・教育学委員会合同 今に生きる・活かす古典を考える分科会 (第2回) (8月26日)

- ① 古典に関するアンケート実施について
- ② 東京都高等学校公民科「倫理」・「公共」研究会関連
・7月面談についての報告
・8月9日の研究会についての報告
- ③ 今後の活動方針について

(8) 社会学委員会 課題解決のための社会理論分科会 (第2回) (8月26日)

- ① 今期の活動内容について
- ② その他

(9) 史学委員会 IUHPST 分科会 (第3回) (8月30日)

- ① IUHPST/DHST 役員選挙及び日本側意見集約について
- ② その他

第二部担当

(1) 臨床医学委員会 移植・再生医療分科会 (第1回) (7月30日)

- ① 役員の選出 (委員長等)
- ② 今後の活動方針について
・再生医療の現状と課題
- ③ 次回シンポジウムの課題について

(2) 健康・生活科学委員会 高齢者の健康・生活分科会 (第3回) (7月30日)

- ① 話題提供1 (須田 木綿子委員) 発表 15分
- ② 話題提供2 (神吉 紀世子委員) 発表 15分
- ③ 話題提供3 (長澤 夏子委員) 発表 15分

- ④ 質疑応答・全体討議
- ⑤ その他

(3) 臨床医学委員会 脳とこころ分科会 (第1回) (7月31日)

- ① 委員長、副委員長、幹事の選出
- ② 今期の活動方針について
- ③ 日本学術会議の現状について
- ④ 見解「脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題」の表出について

(4) 薬学委員会 薬学教育参照基準検討分科会 (第1回) (7月31日)

- ① 薬学教育参照基準検討分科会における委員長、副委員長、幹事等の決定
- ② 薬学教育参照基準の作成
- ③ その他

(5) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会 (第2回)、農学委員会・基礎生物学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS分科会 (第2回) 合同会議 (8月7日)

- ① 日本微生物学連盟について (新理事の紹介等)
- ② 日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS分科会等と日本微生物学連盟の関係について
- ③ 総合微生物科学分科会について
- ④ IUMS分科会について
- ⑤ 病原体学分科会 (第26期は未設置) について
- ⑥ 日本微生物学連盟「野本賞」について
- ⑦ 日本微生物学連盟フォーラムについて
- ⑧ 日本微生物学連盟共催・後援学術集会、日本微生物学連盟共催シンポジウムについて

(6) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 出生・発達分科会 (第6回) (8月7日)

- ① 柘植 あづみ委員 (連携会員) の研究等の報告

(7) 健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同 生活習慣病対策分科会 (第2回) (8月11日)

- ① 意思の表出について
- ② 公開シンポジウム・フォーラムの開催について
- ③ その他

(8) 農学委員会 育種学分科会 (第3回) (8月15日)

- ① 話題提供1：菊池 潔委員 (水産生物の育種研究)
- ② 話題提供2：木村 恵委員 (森林分野の育種研究)
- ③ 協議事項1：シンポジウムの開催方法について

(9) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 出生・発達分科会 (第7回)
(8月16日)

- ① 島菌 進委員 (連携会員) の研究等の報告

(10) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同 ゲノム科学分科会
(第1回) (8月21日)

- ① 各委員の自己紹介
- ② 役員の選出
- ③ 菅野 純夫前委員長より分科会の活動について趣旨と経緯などのご説明
- ④ 今期の活動方針について意見交換、議論

(11) 食料科学委員会・基礎医学委員会合同 獣医学分科会 (第4回) (8月21日)

- ① 意思の表出について
- ② 公開シンポジウムについて
- ③ その他

(12) 食料科学委員会 水産学分科会 (第2回) (8月23日)

- ① 水産学分科会第26期の活動について
- ② 公開シンポジウムについて
- ③ 第二部会、農学委員会・食料科学委員会の報告
- ④ その他

(13) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 出生・発達分科会 (第8回)
(8月28日)

- ① 古庄 知己委員 (連携会員) の研究等の報告

(14) 薬学委員会 基礎系薬学分科会 (第2回) (8月29日)

- ① 薬学研究力を向上するための活動について具体的な検討
- ② その他

第三部担当

(1) 化学委員会 材料化学・分析化学分科会 (第2回) (7月30日)

- ① 材料化学・分析化学分科会の今後の活動方針について
- ② その他

(2) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第3回) (7月31日)

- ① 環境思想・環境教育に関するパブリックフォーラムの検討
- ② その他

(3) 物理学委員会 IAU 分科会 (第3回) ・同委員会 天文学・宇宙物理学分科会 (第3回) 合同会議 (7月31日)

IAU 分科会

- ① 日本の NOC について
- ② IAU 活動報告
- ③ その他

天文学・宇宙物理学分科会

- ① 幹事の追加選出について
- ② 各機関報告
- ③ 日本学術会議物理学委員会報告
- ④ 第26期天文学・宇宙物理学分科会における将来計画の検討について
- ⑤ その他

(4) 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 (第3回) (7月31日)

- ① SCOR 2024 年新規ワーキング・グループ申請書審査
- ② その他

(5) 機械工学委員会 生産科学分科会 (第2回) (7月31日)

- ① 委員名簿の確認
- ② 生産科学分科会による提言の方針について
- ③ 話題提供者の招聘について
- ④ シンポジウムの計画について
- ⑤ その他
 - i) 議事要旨の承認に関する委員長一任について
 - ii) 今後の会議日程等

(6) 土木工学・建築学委員会 気候変動と国土の未来分科会 (第3回) (8月21日)

- ① 本分科会の設置目的について
- ② 各委員の自己紹介
- ③ 過去の提言を振り返る
- ④ 他の分科会との関連について
- ⑤ 今後の活動についての意見交換
- ⑥ その他

(7) 数理学委員会 IMU 分科会 (第1回) (8月23日)

- ① 委員長の互選、副委員長・幹事の指名について
- ② 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- ③ 分科会委員間のメールアドレス共有について
- ④ ICM2026 の各賞の候補者ノミネートについて
- ⑤ ICM2030 について
- ⑥ その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会
(第3回) (8月21日)

- ① 参考人からの意見聴取
- ② 第2回までの意見に基づく論点整理
- ③ 意思の表出に向けたまとめ方のイメージ
- ④ 今後の進め方(参考人意見聴取、日本学術会議内の連携、行事開催等)

(2) 防災減災学術連携委員会(第3回) (8月22日)

第6回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」ー令和6年能登半島地震災害における課題と教訓ーとして開催

- ① 開会挨拶
- ② 趣旨説明
- ③ 来賓挨拶
- ④ 令和6年能登半島地震災害における府省庁の取り組み
- ⑤ 令和6年能登半島地震災害における学協会の取り組み
- ⑥ 全体意見交換
- ⑦ 全体総括
- ⑧ 閉会挨拶

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 連絡会議の開催とその議題

なし

8 サイエンスカフェの開催

(1)

日時: 令和6年7月27日(土) 15:00 ~ 16:30

場所: アル・プラザ彦根6階「COZY TOWN cafe」

テーマ: 「虫の大きさでわかる温暖化」

司会: 山本 真弓(株式会社平和堂地域共創事業部)

講師: 沼田 英治(京都大学学術研究展開センター特定教授/日本学術会議連携会員)

(2)

日時: 令和6年8月7日(水) 13:30 ~ 14:30、8月8日(木) 13:30 ~ 14:30

場所: 日本学術会議庁舎6階6-C会議室

テーマ: 「せんせいといっしょに自由研究〜カガクから覗く(のぞく)家族と宇宙」

司会: 若尾 公章(日本学術会議事務局参事官(審議第一担当)付参事官補佐)

講 師：

【1日目】

石川 麻乃（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授／日本学術会議連携会員）

木村 草太（東京都立大学政治学研究科・法学部教授／日本学術会議連携会員）

【2日目】

癸生川 陽子（東京工業大学理学院地球惑星科学系准教授／日本学術会議連携会員）

大西 楠テア（東京大学大学院法学政治学研究科准教授／日本学術会議連携会員）

9 記録

なし

10 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 有識者議員会合

8月1日（木）（光石会長欠席）

8月22日（木）（光石会長欠席）

8月29日（木）

11 慶弔

なし

12 意思の表出に係る報告

なし

13 意思の表出（英訳版）に係る報告（別冊参照）

- （1）史学委員会 歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会（日本語提言：2023年9月26日公表）

提言「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料、記録、記憶の保全と継承のために」（要旨）

Recommendation

「Materials, Records, and Memories related to the COVID-19 Pandemic : How to Preserve and Hand down them to Future Generations」

14 インパクト・レポート

なし